

京都府生協連ニュース

<第58回通常総会特集>

2011年8月15日・No.80(通算146号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

第58回通常総会開催

～全議案を可決・承認、総会アピールを採択～



¥

6月15日(水)、池坊学園洗心館6階で開催しました。

<ご来賓からご祝辞をいただきました>



開会のあいさつをのべる
小林智子会長理事



京都府山田啓二知事代理
京都府府民生活部部長 金谷 浩志さん



京都労働者福祉協議会細田一三会長代理
事務局長 稲葉 伸二さん

京都府生協連第58回通常総会報告

6月15日（水）午後2時00分より、池坊学園洗心館6階第1会議室で、京都府生活協同組合連合会第58回通常総会を開催しました。

総会の代議員総数は43人で、当日は本人出席35人、委任出席2人、書面出席6人でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、90人が参加しました。

小林智子会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓の京都府府民生活部部長・金谷浩志さん（京都府山田啓二知事代理）、京都労働者福祉協議会事務局長・稲葉伸二さん（京都労働者福祉協議会細田一三会長代理）から、ご祝辞をいただきました。

オブザーバーとして、日本生協連関西地連事務局・小川哲さんはじめ、11の方が参加しました。地元選出の国会議員、各関係団体、各生協などからいただいた76通の祝電・メッセージを坂本茂事務局長がご紹介しました。

第1号・第4号・第5号議案を坂本茂事務局長が提案し、栗飯原利弘監事が監査報告をおこないました。つづいて第2号議案を中森一朗副会長理事が提案、第3号議案を小林智子会長理事が提案しました。10人の代議員・オブザーバーから発言がありました。

さいごに、総会アピール「人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現をめざしましょう！」を採択しました。



議長の 赤木 一成さん
(大学生協京都事業連合)



議案の提案をする中森一朗副会長理事



監査報告をする
栗飯原利弘監事

<祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた> (順不同・敬称略)

民主党衆議院議員	泉 ケンタ	民主党衆議院議員	豊田 潤多郎	民主党衆議院議員	前原 誠司
民主党衆議院議員	山井 和則	民主党参議院議員	福山 哲郎	民主党参議院議員	松井 孝治
公明党衆議院議員	池坊 保子	日本共産党衆議院議員	こくた 恵二	日本共産党参議院議員	井上 さとし
京都府社会福祉協議会会長	柏原 康夫	京都市社会福祉協議会会長	村井 信夫	京都商工会議所会頭	立石 義雄
京都府森林組合連合会代表理事会長	梅原 久弘	京都府漁業協同組合連合会代表理事会長	佐々木新一郎		

■全議案が可決・承認されました

議案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2010年度活動報告・決算関係書類等承認の件	40	0	2	42
第2号議案 2011年度方針・活動計画および予算決定の件	40	0	2	42
第3号議案 2011年度役員選任の件	40	0	2	42
第4号議案 2011年度役員報酬限度額決定の件	40	0	2	42
第5号議案 議案決議効力発生の件	42	0	0	42

※出席代議員の合計43人（本人出席35 委任出席2 書面出席6）、うち議長1人は採決に参加せず。

【京都府生協連 2011年度役員体制】（6月15日現在） *は今回、新任

<会長理事> 小林 智子（員外）	小野 留美子（乙訓医療生協専務理事）
<副会長理事> 中森 一郎（京都大学生協専務理事）	上掛 利博（京都府医・府大生協理事）*
<常任理事> 今西 静生（京都府庁生協専務理事）	酒井 克彦（立命館生協専務理事）*
沼澤 明夫（大学生協京都事業連合専務理事）	佐々木 郁子（生協生活クラブ京都エル・コープ理事長）
廣瀬 佳代（員外）	田中 弘（京都医療生協専務理事）
<理事>	日岡 豊子（京都生協理事）*
大島 芳和（京都生協常務理事）*	渡辺 明子（京都生協副理事長）*
大塚 正文（京都橘学園生協専務理事）*	行松 龍美（やましろ健康医療生協専務理事）
大川 肇（全京都勤労者共済生協専務理事）	右近 裕子（員外）
<監事> 毛利 雅彦（同志社生協専務理事）*	高田 艶子（員外）
	湯浅 美恵子（京都生協理事）*

【理事・監事を退任されたみなさん】（順不同）

<理事> 北村英和さん・末廣恭雄さん・児玉恵美さん	<監事> 粟飯原利弘さん・斎藤紀子さん
---------------------------	---------------------

■10人の代議員・理事・オブザーバーから発言がありました

当日は、10人の代議員・オブザーバーから、地域・大学・医療・職域の各生協の活動について発言がありました。発言をふまえ、小林会長理事は「多様な活動について報告をいただきました。意見や要望もいただきました。これらをしっかりと受けとめ、みなさんがたといっしょに連合会の活動をすすめてまいりたい。今年度はとくに会員間の交流をすすめていきたい。積極的な参加を期待しています」とのまとめをおこないました。

【総会発言の要旨】

1. 生活クラブ生活協同組合京都エル・コープ 上総紫香子 代議員 「地域で協同していきいきと暮らそう」



病気の時や託児が必要な時などに助け合える関係を築く、独自共済の活動をしています。

そのほか、共同購入の場以外に、“ひろば（仲間）”という集まりをもっています。「人と人のつながりが大切」という観点から、地

域小学校単位で組合員が交流しています。東日本大

震災の発生があり、若いお母さん方が子育てをはじめ、いろいろな面で心配事をかかえています。そういった不安や今後について、協同組合でできることはないか、話し合った結果、毎月1回会議を開催し、意見交換することにより、情報を共有して、今後どうしたらよいかなどを交流する場をもつことになりました。実施してみると、さまざまな年齢の方が集まり、それぞれの意見や考えを出し合う楽しい会になっています。こういった集まりの開催が地域内の関係を深める手助けになっています。

2. 生活協同組合コープ自然派京都 坂本真有美 代議員

「食は環境に影響され、環境は食に影響されます。社会的課題にたいしても発言し続けます」



食の安心・安全への取り組みのひとつとして、遺伝子組換え作物の生産に反対し、すべての加工品への表示義務をもとめる活動をしています。2010年5月に実施されたGMOなたね（遺伝子組換えなたね）の

全国調査に初めて参加しました。すべて陰性（遺伝子組換えでない）という結果でした。

2010年10月には、名古屋でおこなわれたCOP10/MOP5パレードに参加しました。総勢21人で

カエルのお面をつけ、「遺伝子組み換え作物反対！」とコール。充実した1時間半でした。

2011年2月には、GMOフリーゾーン全国交流集会in徳島に参加、徳島の市街地をパレードしました。国内では遺伝子組換え作物の生産を農林水産省が承認しようとしています。ヒトの健康や生物、在来種への影響が懸念されるので声を上げていきたいと思っています。2010年秋には「六ヶ所核燃料再処理工場稼働反対」署名をよびかけ、約3か月で1万1338筆集まりました。みなさまにも、ご協力をいただき、ありがとうございます。3月11日に経済産業省に集まった署名を提出してきました。その30分後に東日本大震災が起きました。運動の重要性を感じました。



3. 京都生活協同組合 平野裕子 代議員

「京都生協の1年間をふりかえる」



2010年度事業到達は総事業高713億3436万円（前年比99.8%）となり、予算には到達しませんでした。前年度より6億7312万円伸長しました。組合員数は49万人をこえ、京都府内組織率42%となりました。しかし、一人当たりの利用

単価は減少しました。東日本大震災をうけて、日本社会の先行きにたいする組合員の不安の声が聞かれます。長期的被災地支援とあわせて、事業活動の強化をすすめていく必要があります。

2010年度は高齢者へのサポートの取り組みとして介護商品の企画、中丹支部エリアで配達時の見守り活動を開始しました。また「さくらこめたまご」の利用が伸長し、組合員対象学習会へのべ1350

人の参加があり、高い関心と支持がよせられました。

「環境保全型農業推進コンクール」において特別賞を受賞しました。

産直商品の普及をめざした「産直大好きキャンペーン」の実施や、地産地消の取り組みもすすめました。

理事会では、総代にわかりやすい議案書づくりや、協同組合の原則・価値を学び直すこと、機関の権限と責任を明確にすることなどをすすめています。

府連理事会にかんする報告と協議をおこなうことも京都生協の理事会のなかに位置づけています。府連総会議案にかかわることでは、「こんごの府連活動のあり方について」を参照というだけでは曖昧さを感じます。「府連理事会のあり方」と柱をおこし方向性を明らかにすることを要望します。東日本大震災に関連する活動を重点的にして、予算もふくめて見直しをお願いします。会員生協の事業経営もきびしいなか、役員報酬についても検討してください。

4. 同志社生協 毛利 雅彦 オブザーバー 「経営改善での取り組みと今後の課題」



多額の累積赤字をかかえ、解消にむけて努力してきた結果、再建の一步を踏み出しました。昨年度の府連総会では再建計画を作成したという報告内容でしたが、今回は計画を実施した結果、成果が出たということについて、報告します。

2010年度は、まず経営再建の原動力である職員の育成と意識の改革に力を入れました。270人による学習交流会では20のグループに分かれて現場の実践交流をし、現状の到達点と課題を共有しました。他部門からの参加による提案により飛躍的な成果が出た部門もありました。

たとえば食堂部門ではメニュー作成作業から改革し、商品管理やクリンリネスなども取り組みました。購買部門では単品管理研修への参加と実践、キャンパスごとのパート職員対象にコンビニ基礎講座を実施しました。サービス部門では、入学前の教習所幹旋情報の提供、入学式以降に創意工夫のある旺盛な

宣伝を重ね、とくに教習所との協力で、飛躍的な利用増となりました。書籍部門ではこの数年で確実に伸長させてきた成果で、全国的にもきびしい教科書の減少を最小限にしました。とくにチャンスロス防止対策を強化しました。

学生委員会の活動の復活もこころみ、8人に広がりました。教職員総代についてはあらたに7人がくわり、教職員固有の課題やテーマにもとづく活動を定着させました。

このような努力の結果、2010年度再生計画初年度に600万円の事業剰余を確保することができました。教訓は、事業連合と同志社生協が協力して取り組み、同じ方向をめざしてきたからこそなしたという点です。

2011年新学期から、「モノ」だけの提案から「コトからモノへ」への提案をテーマとして活動を開始しています。2011年度は、東日本大震災にたいして大学生協としての役割を發揮すること、生協電子マネーの運用開始、同志社香里中学・高校への店舗事業開始、今出川の再開発計画など、あらたな事業展開とともに経営再建にむけて努力してまいります。



5. 京都市立医科大学・府立大学生協同組合 千種 浩香 代議員 「地域連携と組合員参加で鹿肉カレーを開発しました」



10月23日～24日、京丹後市久美浜町周辺で農村体験ツアー2010を実施しました。6年前から実施しています。猪・鹿処理施設「ぼたん・もみじ比治の里」を見学し、鳥獣被害について学びました。施設は猪・鹿肉を農村の貴重なタンパク源ととらえて食肉利用する

という趣旨のもとに建てられ、徹底的な衛生管理のもと、安心・安全な食肉流通がめざされています。府医大生協の食堂「ポレポレ」で使用している米の「エチエ農産」を訪問し、収穫体験をしました。ここで収穫された「京都丹後産コシヒカリ」は日本穀物検定協会から米食味ランキング最良評価の「特A」を3年連続（2007～2009年）で受賞しています。鳥

獣被害の現状は、京都で被害総額7億円といわれ、大きな社会問題となっています。京丹後市が率先して、地域農業の保全に取り組んでいることを、このツアーで学びました。2010年度、京丹後市「ぼたん・もみじ比治の里」と社会福祉法人「奈良県青葉仁（あおはに）会」、府医大・府大生協の3者連携による鹿肉カレーが開発されました。鳥獣被害の現状をふまえ、障害者支援事業の拡大、地域に開かれた大学づくりをめざしたものです。「ぼたん・もみじ比治の里」で捕獲された鹿肉を処理・流通、奈良県青葉仁会でカレーの加工、府立医大、府大生協で販売します。現地視察、学習会、試食会を重ね、昨年10月ようやく「たんご彩（いろどり）もみじカレー」が誕生しました。名称は組合員から募集し、理事会で決定しました。臭みもなく、低カロリー・高タンパク、しかも鉄分豊富なこのカレー（420円）ぜひご賞味ください。レトルト商品（一袋300円）も販売中です。

6. 立命館生活協同組合 増田 暁仁 代議員
「立命館生協第 85 回通常総会について」



第 85 回通常総会について報告します。5 月 13 日総代交流会を開催し、グループ討論をおこないました。食堂部門と購買部門から意見を出してもらい、6 つのテーマにそって議論しました。①諒友館食堂の混雑解消について、②以学館わくわく

プロジェクト・生協と学生組合員が連携した店舗づくり、③存心館プロジェクト・立て替えも視野に、④長期震災支援プロジェクト・募金以外の取り組みについて、⑤生協夏祭り・衣笠キャンパスでも実施、浴衣フェアと連動企画、⑥APUとRUとの交流企画を生協で。

総代会は 98 名の実出席で、当日は衣笠とBKCに分かれて分散会もおこないました。今後は、交流会と分散会で出された意見を生協学生委員会として実現していきたいと思います。

7. 京都府庁生協 佐々木 芳彦 代議員
「『あってよかった!』といわれる府庁生協をめざして」



今年は「府庁に生協があつてよかったといわれる府庁生協をめざして」をスローガンに努力していきます。生協店舗は本庁が中心になりますが、店舗のないところの組合員にも満足してもらえるように、地産地消フェアを

実施しました。公務員賠償保険法という取り組みをすすめており、府庁職員の 20%が加入しています。国民文化祭のグッズ販売もおこない、東日本大震災への支援では京都に来られた被災者の方への食事提供を担当しています。福島県産野菜を使用したメニューを販売しました。理事会でも議論があり、多方面からもさまざまな意見をいただいておりますが、安全性を確認しながら、取り組みをすすめていきます。

しっかりとした経営基盤をつくってくとともに、府連ともしっかりと連携をとっていきたい。

8. 京都医療生活協同組合 あざみ祥子 代議員
「京都医療生協の『60年のあゆみ』を発行しました」



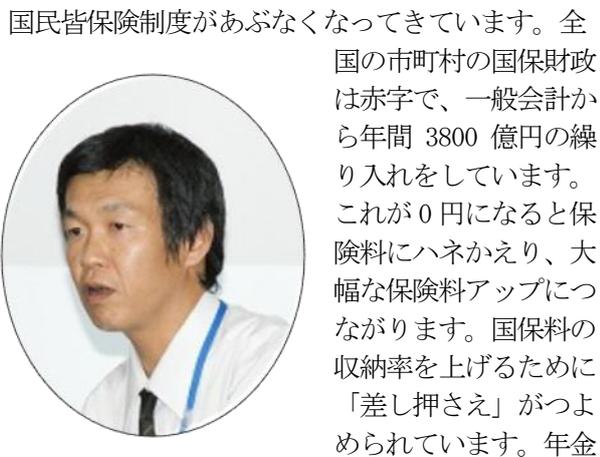
京都医療生協は 1950 年 4 月 25 日、下御霊神社で 510 名の賛同を得て創立されました。当時は伝染病などが蔓延していたにもかかわらず、一部の改装にしか健康保険がなく、せめて健保なみの料金で医療をうけたいとの願いから市民が立ち上がったのです。設立趣意書にあるように、まさに勤労市民の主体的な参加と活動から誕生しました。それか

ら 60 年たち、人びとの生活も、社会も医療も変化しました。この 60 年間に創成期、停滞期、再興期、転換期の 4 つのタイトルをつけましたが、社会の変化に医療生協が翻弄されつつも、医療生協とはどうあるべきかを懸命に模索してきた軌跡です。

編集に 2 年かかりました。「そういうことだったのか」「やっとわかったわ」という声がほとんどで、若いスタッフからは医療生協のめざした志はとても大切なものだなあとの意見をいただきました。

今後は医師、職員、そして組合員一丸をなつて、あらたな一歩を踏み出していきます。

9. やましる健康医療生活協同組合 上坂光彦 代議員 「国民皆保険制度 50年 医療は『自立』『自助』か？」



国民皆保険制度があぶなくなってきました。全国の市町村の国保財政は赤字で、一般会計から年間 3800 億円の繰り入れをしています。これが 0 円になると保険料にハネかえり、大幅な保険料アップにつながります。国保料の収納率を上げるために「差し押さえ」がつけられています。年金

が入るとその直後に民間業者によって銀行口座が差し押さえるなどの事態が生まれています。その結果、保険料が年々引き上げられ、また滞納が増加し、医療にかかれなくなる人が増えるという状況になっています。民医連が 2010 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の 1 年間、全国の加盟事業所総計 1767 施設で調査した結果、保険未加入による死亡が 42 事例、保険証を保持しながらの「手遅れ」が 29 事例にのぼったことがわかりました。

やましる健康医療生協では、こうした実態をふまえ、地域で班会をしながら、医療制度のこれ以上の改悪を許さない取り組みをすすめています。



10. 乙訓医療生活協同組合 鈴木 文章 (すずきぶんしょう) 代議員 「さらなる発展をめざして」



乙訓医療生協では、4000 万円の増資大運動を成功させるための取り組みをおこないました。リハビリや配食サービスを実施、健康づくり事業の実施にも取り組んできました。建物の全面リニューアルもしました。大阪北野田医療生協の経験に

も学びました。

2010 年 9 月に「スタート集会・支部交流会」を実施しました。9 つの支部が 10 支部になり、毎週、推進事務局会議をもってすすめてきました。「ガンパニユース」を毎週発行、取り組みの内容と「なぜ増資大運動に取り組むか」について、情報提供してきま

した。

「医療生協の未来を語る会」を開催するなかで、組合員を訪問して苦しい生活の実態を把握し、支え

ていくという原点を共有しあいました。「出会い」「ふれあい」「支え合い」の方向性を確認しながら、診療所から遠いところでも「語る会」を開催する努力をおこなってきました。「全組合員さんにあたらう」と職員・理事合同ですすめてきましたが、中には組合員さんが亡くなられておられたり、苦しい実態のある組合員の生活もわかってきました。これらの取り組みによって、増資目標も組合員増加目標も達成できました。

今後は組織部体制の強化をすすめ、4 つの全国課題である、①仲間増やし、②増資参加者、③班づくり・班会、④担い手、機関誌『青い空』の手配り配布者の増加、に取り組んでいきます。

■総会アピールを採択しました

高田艶子理事が総会アピールについて提案し、拍手で確認しました。



京都府生活協同組合連合会第 58 回通常総会アピール

人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現をめざしていきましょう！

3月11日に発生した東日本大震災により、多くの方がたがお亡くなりになられたことにたいし、お悔み申し上げますとともに、被災された方をはじめ避難生活をよぎなくされておられるみなさまに心よりお見舞いを申し上げます。

被災地の生協は、発災直後から地域住民のいのちとくらしをささえる活動をはたしつづけてこられており、京都の生協においても全国の生協とともに救援物資の提供、店舗・共同購入等の事業継続や医療・共済活動への支援、募金・ボランティア要請対応などの取組みをすすめてきました。しかし、3カ月以上たった現在も、被災地においては筆舌につくしがたい困難がつづいており、福島第1原子力発電所にかかわる事故の収束も見通すにはいたらない状況です。

岩手・宮城・福島県などにおける農林水産業や中小地場産業への打撃、避難生活の長期化などの影響をうけて、被災地の生協は幾多の事業的な苦境に直面しています。ひきつづき、全国の生協からの支援が必要です。

今回の大災害は、私たちのくらしのうえでも、多くのことを浮き彫りにしました。現在の日本社会が原子力発電や石油に依存した電力・エネルギー消費を土台にして成り立っていること、サプライチェーン（商品調達網）のグローバル化のなかでの「寸断」が世界全体の自動車生産から消費者に身近な食品・飲料・日用品にいたるまで深い影響をもたらすこと、地域社会の人口減・高齢化のもとで行政・医療・福祉機能が急速に弱まっていることなど——これらを受けて、個々人の消費生活においても歴史的な変化がはじまっています。

阪神・淡路大震災が発生した1995年は「ボランティア元年」といわれ、市民による「あらたな社会参加」スタイルをつくりだしました。それから16年、今回の大災害のなかで、日常の買い物行動をつうじて被災地を支援していこうという「消費をつうじた社会貢献」活動がかつてない高まりをみせています。あわせて、「人と社会とのつながりのなかで安心を確認できるくらし方」への共感が広がっています。こうした生活価値観の採用は、「一人は万人のために、万人は一人のために」という生協の理念と重なるものであり、「消費者市民社会」の形成にむかっただけの大きな前進です。こんごの生協の事業と運営に重要な影響を及ぼしていくことでしょう。

本日、京都府生活協同組合連合会は第58回通常総会を開催し、京都府内において生協への加入組合員数が69万人をこえ、会を構成する19生協が経営環境のきびしさをうけとめながらも旺盛な事業と活動を展開していることを確認しあいました。日本生協連「日本の生協の2020年ビジョン」は「人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現をめざします」とうたっています。被災地の一日も早い生活再建・地域復興にむけて、京都の生協においても積極的に協同・連帯の精神を発揮していきましょう。

国連は2012年を国際協同組合年とすることを決めました。協同組合の価値・理念・仕組みについての理解を社会に広めていく絶好の機会です。全会員で国際協同組合年を記念する取組みをすすめていきましょう。京都府生活協同組合連合会は、府内における生協の「中央会的機能」をはたす会員連合組織として、その役割を発揮し、府内外の期待に力づくよくこたえていきます。

2011年6月15日
京都府生活協同組合連合会